



広報ナガヤマの

おきこぼり日誌



Vol.3

「喫茶セブン」

珈琲が好きで毎日飲んでいるのですが、僕にとって富田町界隈で喫茶店と言えば「喫茶セブン」さん。1971年創業(僕と同じ年！)で、富田町病院が診療所だった頃のお話もよく聞かせていただいています。

ランチタイム限定の定食は、高知の農家さん直送のお米と、自家製味噌を使ったお味噌汁というこだわりで、美味しい珈琲とセットでいただくと僕にとってまさに「至高のひとつき」。(しかもお安いです！)

マスターの息子さん(珈琲鑑定士世界2位！)が、京田辺市で「カフェサボローソ」というお店をされているのですが、撮影で一休寺(酬恩庵)を訪れた

際に看板をお見かけし、定休日だったためまたの機会にと思っていました。富田町に来る度にお見かけしていたセブンさんにご両親のお店と後で知り驚きました。

セブンさんの存在を知る事になった看板や、店内のメニューは息子さんのおつれあい(イラストレーター)が書かれているそうで、優しいテイストでとても味わい深いです。

珈琲好きの方はもちろん、お昼に美味しいご飯とお味噌汁でほっこりしたい方にもオススメです。

広報担当 永山健一



富田町病院からのお知らせ

来院前にご確認ください！

5月からの外来診療・検査担当医表

		月	火	水	木	金	土
午前診 受付時間 8:30~12:00 診療時間 9:00~	内科 1診	澤井佐和子	蓑手秀司	高村香織	蓑手秀司	澤井佐和子	森川智博
	内科 2診		森川智博	満屋 奨	森川智博	高村香織	第2・4・5) 谷口 中
	内科・総合診療科	馬場宏敏					第1・3) 馬場宏敏
	骨粗鬆症・リハビリ			小川博之			
	糖尿病(予約)			澤井佐和子			
	循環器(予約)	浅沼俊彦				浅沼俊彦	
	検査(予約)		胃カメラ(橋本)				第2・4) 胃・大腸
午後診 (予約制)	訪問診療	高村香織	澤井佐和子 相河伸俊	森川智博 第2) 奥 智子	高村香織 第1・3) 馬場/第2・4) 満屋	蓑手秀司 満屋 奨	第1・3) 谷口 中 第2・4) 皮膚科
	専門外来 健診 訪問診療		【物忘れ外来】 相河伸俊	【糖尿病外来】 澤井佐和子 【神経内科】 奥 智子	【成人健診】 (13:00~) 馬場宏敏	訪問診療 満屋 奨	【糖尿病外来】 第2) 澤井佐和子 【物忘れ外来】 坂田哲二
	検査(予約)	心エコー(浅沼)	大腸カメラ(橋本)			心エコー(浅沼)	
夜 診 受付17:30~20:00 診療18:00~	内科 1診	休診	休診	大阪医科薬科大学	休診	蓑手秀司	休診

富田地域包括支援センターからののお知らせ



健康 アップ教室

日時 毎月 第3月曜日
(祝日の場合は第2月曜日) 要予約
午前 10:00~11:30

場所 富田公民館 2階/集会室3
(10月のみ大集会室)

持ち物 筆記用具、飲み物、
健康パスポート(お持ちの方)

毎月いろいろな専門職から健康に関する
お話を聞いたり、気軽に質問もできます。
高槻市オリジナルの元気体操を行なって体も動きます。

2024年(令和6年)	
5月20日(月)	栄養士「クセになる間食について」
6月17日(月)	栄養士「手軽に続ける食習慣で元気に長生き!」 協賛: 株式会社 明治
7月8日(月)	生前整理診断士「生前整理で心も体も元気に!」 協賛: 株式会社 すまいるりーど
8月はお休みです	
9月9日(月)	理学療法士・作業療法士 「意識すればこんなに違う!ますます元気体操」

詳しくはお電話にてお問い合わせください。TEL.072-694-2434

ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます。

かなえ

Vol. 15
春号



地域で暮らす人びとが安心していつでもかけられる医療機関として
42年前にスタートした富田町病院は、
2024年4月、60床すべてを地域包括ケア病床として
新たな一歩を踏み出しました。



この取り組みは、私たちの法人理念にある「チームのちから」を原動力に、スタッフが「自分ごと」として考え、アイデアを出し、行動することによって進めてきました。
広報誌「かなえ」では今号と次号の2回にわたり、この「全床地域包括ケア病床化」への取り組み過程と、さらにこれから目指すものについてお伝えします。

富田町病院「全床地域包括ケア病床化プロジェクトチーム」一同



医療法人 庸愛会



社会福祉法人 健康会

どんな病院を目指すかは、 「一人ひとり」から始まる

医療法人庸愛会富田町病院
看護部長 永久教子

社会福祉法人健康会
統括部長 井田郁子

今回は、富田町病院の「全床地域包括ケア病床化」に向けた取り組みの中心的役割を担った「プロジェクトチーム」の活動をお伝えします。具体的な活動内容だけでなく、この取り組みをとらえて私たちのなかに起きた変化や、あらためて気づいたこと、目指す「これから」について・・・と、話は広がりました。

井田：今回の全床地域包括ケア病床化（以下、「全床地ケア化」と略します）、大きな決断と取り組みだったと思います。準備はどのように進めてきたのですか？

永久：医療法人庸愛会は、富田町病院の前身である富田町診療所の時代から考えると半世紀近くこの地域で在宅医療を担ってきました。様々な制度が変化していく中でも、私たちの役割について常に考えながら仕事をしてきましたが、そこで培ってきた最大の「強み」はやっぱり「暮らしの場所」につなぐ医療を実践することでした。その「再確認」を踏まえて未来を展望したとき、私たちの役割をより効果的に発揮できるのが「全床地ケア化」だという結論に辿り着きました。

井田：そこから実際の動きが始まったんですね。

永久：そうです。そこから、「私たちの病院のこと」としてスタッフのみんなに「自分ごと」として参画してもらうことを始めました。スタッフ全体に向けて事務長から「全床地ケア化」の方針を伝えた後、まず、部課長は後方支援にまわり、できるだけ多くの部署のスタッフに関わってもらえるよう人選してプロジェクトチームを立ち上げました。寺田地域連携室長が座長、私が副座長になり、全床地ケア化に向けて具体的に準備すべきことを整理して6つの作業部会（別図参照）を作りました。作業部会に分かれる際には、メンバーから「自分はこの部分を担当するよ」「こんなことに取り組みたい」などの声を寄せてもらい、それを反映させました。それぞれの作業部会の役割を踏まえたうえで「自分たちは何をどうしたいのか」を話し合い、病床数を元の69床から何床にするのか、病室ごとのベッドの配置をどうするのか、限られた財源のなかで設備投資はどこに集中させるのかなど、病院運営のコアな部分にもプロジェクトチームのメンバーの意見を反映させ、「みんなで考えて、決めて、動く」流れをつくりました。もちろん、メンバーからの意見や提案をすべて実現する

ことは叶いませんでした、その中での大きな変化は「今ある状況のなかでの最善」と「優先順位」に着目しながら、「今後に向けた展望をもって取り組みを続ける」流れができてきたことだと感じています。

井田：日々の業務があるなかで、どんなふうに進めていったのですか？

永久：各作業部会の活動は、送り出してくれる各部署のスタッフの協力なしには成立しなかったと思います。忙しい日々のなか、新型コロナやインフルエンザの感染拡大にも見舞われ、それでも調整して集まって進めていく、そのこと自体が私たちを強化したと思います。

井田：庸愛会の最大の強みである「暮らしの場所」につなぐ医療は、今回の「全床地ケア化」によってどう進化しますか？

永久：たとえば「入退院に関する流れ」を整理する中で、他部署や他職種の動きを可視化して相互理解できたことは、まず院内が「つながる」、「協同する」ことを実務的に進めるチャンスになりました。多職種がそれぞれに作成していた記録用紙



日々の業務も、
多職種での情報共有からスタート



入退院に関わる多職種の
業務を付箋で「見える化」

の一元化や、「入院から退院までの流れ」を患者さん、ご家族、スタッフで共有できる紙面に整理するなど、取り組みの成果を「かたち」にできたことは大きいですね。そして、入院前の居場所（急性期病院、ご自宅、施設など）を支えていた人たちの日頃からの連携による「切れ目のない支援」や、退院後に「戻る場所」とのつながりの強化の必要性を再認識しました。私たちには在宅支援病院としての歴史があり、地域の患者さんの「かかりつけ医」であり、訪問診療も行い、訪問看護ステーションや通所リハビリを持ち、地域包括支援センターも運営していますが、急性期病院と在宅復帰をつなぐ、退院後に利用する様々なサービスと患者さん・ご家族をつなぐ、その「つなぎ目」を富田町病院の病床が担うというイメージを、すべての部署のスタッフが持ちながら仕事をするのが求められています。

井田：そこに健康会も合流していくことが大切ですね。

永久：まさにそこを、これからもっと分厚く強化していきたいです。「暮らしの場所」につなぐ医療は、場所、ひと、しくみを一緒につくっていくことも大きな役割だと思います。今回の富田町病院の「全床地ケア化」は、庸愛会と健康会が目指す医療や介護を実践していくなかでのひとつのステップだということを、健康会の皆さんともぜひ共有したいです。

全床地域包括ケア病床化に向けた

6つの作業部会

- 病床レイアウト部会： 病床だけでなく各病室内のベッド配置、トイレ等の療養環境を感染対策の視点も加味して検討
- 備品購入部会： 今後の患者像をイメージした備品の選定
- 入退院標準化部会： 入院前から退院までの各職種・各部署の動きを可視化して共有した上で、重複や漏れがないよう整理して標準化
- 連携先開拓部会： 近隣の急性期病院や、「在宅」を支えて下さる事業所を訪問し、当院の「強み」とよりスムーズな連携について直接意見交換
- 病床基準数値管理部会： 地域包括ケア病床が満たすべき数値の明確化と現場への周知
- 入院のしおり作成部会： 地域包括ケア病床へのスムーズな入退院と、安全な入院療養に患者・家族も参画できる内容にしおりをリニューアル



患者さんの目線で
ベッド周囲の環境を再点検

これだけの超高齢社会、そして家族のかたちも多様化していくなかで、「暮らしの場所」もさまざまです。一つの事業所だけで叶えられることは多くはありません。まさに、わたしたちの理念である「チームのちから」で叶えていくために、富田町病院の60床が「つなぎ目」になれるよう、みんなで「自分ごと」として協働していけたらと思っています。

井田：地域で暮らす人たちの現状や課題について、健康会からもっと発信していくことがすごく大事だと思います。いま何が求められ、今後どんなことに取り組んでいけばよいのかを、両法人のスタッフだけでなく、もっと拡げて、地域のさまざまな事業所の人たちや住民の皆さんと一緒に知恵を出し合って具体化していく取り組みをしていけたらと思います。

永久：その取り組みの大きな一歩が「全床地ケア化」だと思っています。病床機能を変えることがゴールではなく、ここからいろいろなことが始まっていけばいいなと、そうしていかなければならないなと強く思っています。

まとめ：広報委員